SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

全員参加型討論会「大発見、静岡！(話っ、輪っ、和っ！2012)」(年次報告(平成24年度後期・25年度前期) V 地域交流)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2014-04-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 袴田, 麻里 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00007702

V　地域交流

案野　香子／袴田　麻里

平成24年10月13日㈯長田南小学校にて「親子おもしろ講座」として、留学生が小学生およびその父兄を対象に自国のあいさつや文化などを紹介した。

10月20日㈯には静岡市青少年国際親善交流事業である「座禅にチャレンジ」に留学生が15名参加し、座禅を体験するとともに、地域の小中学生と交流をもった。

11月16日㈮から18日㈰まで、浜松キャンパスの留学生６名（ベトナム３、韓国２、中国１）が、浜松市内の家庭でホームステイし、日本の生活様式や習慣、文化を体験した。

11月17日㈯に、静岡市青少年国際親善交流事業である「昔の遊びにチャレンジ」に留学生が６名参加し、日本の伝統的な遊びを体験するとともに、地域の小中学生と交流をもった。

12月13日㈭に、静岡市立大谷小学校にて交流会が行われ、８名の留学生が参加し、子どもたちと交流を深めた。

12月11日㈫、14日㈮、１月18日㈮に、静岡大学付属浜松中学校３年生の英語授業をマレーシア、インドネシア、中国、ドイツの留学生が訪問し、中学生と日本や母国について英語で話し合った。

12月15日㈯に、静岡市青少年国際親善交流事業である「闘茶にチャレンジ」に13名の留学生が参加し、闘茶を体験するとともに、地域の小中学生と交流をもった。

平成25年１月27日㈰に、NPO法人浜松日中文化交流会主催の春節パーティーが開催され、浜松キャンパスの中国人留学生や研究者、およびその家族約40名が招待され、ゲームや歌、楽器演奏などを通して、お互いの交流を深めた。

２月３日㈰に、静岡市青少年国際親善交流事業である「餅つきにチャレンジ」に15名の留学生が参加し、日本の餅つき体験を通して日本文化を学び、また、小中学生と交流をもった。

６月15日㈯に静岡市立登呂博物館が行った田植え活動（登呂公園水田）に５名の留学生が参加し、地域の小中高生と親睦を深めた。

８月４日㈰に、NPO法人浜松日中文化交流会の「お茶と浴衣で日中文化交流」に浜松キャンパスの中国人留学生や研究者、およびその家族約30名が招待され、文化交流を楽しんだ。

９月21日㈯から23日㈪まで、ベトナム人留学生４名が浅羽ベトナム会会員の家庭にホームステイし、日本の家庭生活を体験した。

全員参加型討論会「大発見、静岡！（話っ、輪っ、和っ！2012）」

袴田　麻里

24年度は、公益財団法人中島記念国際交流財団より助成を受け、留学生地域交流事業として、静岡県留学生等交流推進協議会の単独企画として、静岡県国際交流協会、静岡市と

協力しながらの実施となった。5月に留学生4名と日本人学生9名で実行委員会を結成、静岡大学国際交流センター教員とともに準備・運営を行なった。

第一の成果としては、「留学生」と「日本人学生」ではなく、同じ「静岡県で学ぶ学生」として活動できたことである。学生（留学生と日本人学生）が実行委員だったことで同じ学生として活動に取り組む姿勢があり、それが参加学生（留学生と日本人学生）にも波及した。その結果、イベント終了後も学生同士の交流が続いている。このような個人レベルでの友人関係が築けたことは大きな成果である。

また、同じ静岡県で勉学する仲間として、大学で学ぶ意義について学生自身が考察を深められたことは成果と言えよう。例えば、「これからの平和について話をしよう」のグループでも、一人の大学生として何ができるかに絞って話し合うことができた。これは、学生（留学生と日本人学生）が実行委員として主体的に準備・運営し、学生が最も興味を持つ事柄をテーマとした結果、学生が自分自身の課題として具体的なレベルからテーマに取り組み、観念論や抽象的議論に陥ることがなかったことが理由だと思われる。

静岡県は平成21年度より、質の高い留学生を受け入れ、地域社会・産業を支える人材として送り出す方針をとっており、産学官の連携が進んでいる。しかしながら、静岡県の国際化を進めるためには、今後、留学生支援と並行して、日本人学生の国際化を積極的に進めなければならない。「話っ、輪っ、和っ！」は多様な価値観、背景を持つ留学生と日本人学生が気軽に交流できる機会である。同じ大学生として有意義な大学生活を送ることができるよう、留学生へも日本人学生へも働きかけをさらに強めていきたい。

第20回　榛葉鉄工所との交流

袴田　麻里

平成25年7月27日、株式会社榛葉鉄工所榛葉正志会長より浜松キャンパスの留学生およびその家族約33名が、伊東学長、鈴木国際交流センター長とともにヤマハリゾートつま恋に招待をいただき、午前のスポーツや昼食会、午後のミニ運動会を通して、同社社長や社員との親交を深めた。今年のご招待は20回目であり、伊東学長より感謝状が手渡された。

株式会社榛葉鉄工所（掛川市）は、輸送用機器部品を開発、製造する企業である。マフラーを提供するスズキ、カワサキの自動二輪車が世界各地へ販売され高い評価を得ていることから、世界の人々に恩返しという意味を込めて、榛葉正志社長（現会長）が平成2年から静岡大学工学部の留学生との交流会を計画し、新入社員研修の一環として実施なさったのが始まりである。景気低迷の一時期を除き、平成11年からは榛葉社長個人のご好意で、毎年浜松キャンパスの留学生とその家族を招待してくださっている。この交流が縁で平成13年に理工学研究科後期課程を修了した中国人留学生が榛葉鉄工所に入社し、現在、タイ工場の社長として活躍中である。また、現在は、博士課程修了者2名がインターンシップでお世話になっている。

留学生にとって、このように親しく企業の方々と接する機会は非常に貴重である。工学部や情報学部に所属する留学生は、日本の技術や製造業に関心を持っており、卒業後は日